

オンライン ISSN: 2435-7707

拓 蹊

第 3 号



広島中国近代史研究会

2020年5月30日

目次

特集：金子肇『近代中国の国会と憲政：議会専制の系譜』をめぐる討論

はじめに		1
『近代中国の国会と憲政－議会専制の系譜－』で意図した問題提起	金子肇	2
コメント1	奈良勝司	4
コメント2	森川裕貫	11
全体討論		17

当日配布資料

『近代中国の国会と憲政－議会専制の系譜－』で意図した問題提起	金子肇	37
書評：金子肇『近代中国の国会と憲政－議会専制の系譜－』	奈良勝司	38
金子肇『近代中国の国会と憲政：議会専制の系譜』（有志舎、2019年） へのコメント	森川裕貫	41

中国近現代史研究に関する情報検索サイト・研究機関等 HP 一覧	丸田孝志	45
---------------------------------	------	----

広島市の平和文化運動史研究序説

——土屋清の『河』と劇団月曜会の1960-1980年代——	水羽信男	50
-------------------------------	------	----

小特集 布川弘さんを偲んで

はじめに	水羽信男	84
布川弘研究業績目録	丸田孝志・李芸	85
「はたらく喜び」、私利私欲と経済	布川弘	94
研究室紹介 布川弘先生 日本近代都市社会学	『飛翔』編集部	98
被爆体験の継承について	布川弘	101

記録 広島中国近代史研究会例会(2015年9月～2020年2月)		104
----------------------------------	--	-----

参考資料：研究会活動報告など	金子肇ほか	108
----------------	-------	-----

【編集後記】

言うまでもなく、僕たちの研究会に継続的に雑誌を発行する経済的な基盤はない。同時に、今日の研究環境を考えた時、特に若手研究者にとっては、査読のある雑誌に論文を掲載することが就職・昇任にとって必須の条件である。さらに理系雑誌のみならず、文系の査読付きの学術雑誌についても、ランク付けする風潮が強まっている。

とすれば、研究会の同人誌を公刊し続ける意義はどこにあるのか。実際、『幻境』や『中国女性史研究』など会費制度を持つ組織を除くと、同人誌的なものの多くが、今日では休刊・終刊しているようだ。

しかし他方で研究会として対外的に発信したい企画で、学会誌の誌面を占められることはまれである。また SNS などを通じた情報や意見の発信が、電子版とはいえ「雑誌」を代替し得るのか、僕は疑問を感じている。それゆえ、電子ジャーナルという形式でどこまで可能か、またそのための手順や方法はどのようなものなのか、まずは挑戦してみようと考えた。もし今回の試みが、何年か先に誰かに継承されれば嬉しいし、その限界が明らかになるならば、それはそれで一つの成果といえよう。

第3号の内容について、広島大学の先輩である田中仁さんの2020年3月の大阪大学法学部の退職を記念する企画や、笹川裕史さんが編集し、僕たちも参加した『戦時秩序に巣喰う「声」：日中戦争・国共内戦・朝鮮戦争と中国の社会』（創土社、2017年）の書評なども考えてみた。研究会の仲間と相談すれば、そのほかにも意義深いアイデアが多々もらえたらう。だが、結局、僕が動ける範囲に止まった。60歳でのサバティカル

研修、しかも人生初めての一人暮らしのため、思った以上に、できることが制限された。

その一方で、本誌に投稿予定だった拙稿を『アジア社会文化研究』第21号(2020年3月)にまわしたため、本誌には中国近代史研究の枠を外れた文章を掲載してしまった。ただ本誌掲載の拙稿は、布川弘さんが広島大学大学院総合科学研究科で企画し、主催してきたプロジェクト「ヒロシマの形成」の責任者を僕が引き継いだことで書いたもので、本号の布川さんを偲ぶ小特集と結果的につながった。

このように迷走し続けた僕の思いつきに、最後まで付き合ってくれた金子肇さんと丸田孝志さんの厚情には、頭が上がらない。なお布川さんのエッセーの文字起こしには、広島大学大学院総合科学研究科の後田美沙さん、呉憲占くんの手を煩わせた。また広島大学学術情報リポジトリ上での公刊については、図書学術情報企画グループのスタッフの支援を得た。心から感謝している。

最後になりましたが、布川さん縁の3つのエッセーの転載を認めてくださった布川中子さん、そして原載誌の関係者各位に、改めて謝意を表します。ありがとうございました。
(水羽信男)

拓蹊 第3号

2020年5月30日発行

編者：広島中国近代史研究会

739-8521 東広島市鏡山1-7-1

広島大学総合科学部

水羽信男 研究室内